



ならっ子だよ



守ろう、地域の子どもたち 毎月17日は「子ども安全の日」です。



奈良に伝わる、むかし話って知ってる？

学校では、読書タイムがあって、本を読んだり、読み聞かせをしてもらったりしているよ。



奈良に伝わるむかし話が紙芝居に！

みなさんの好きなむかし話は何ですか？『浦島太郎』『さるかに合戦』『鶴の恩返し』、それとも・・・一般によく知られているむかし話のほかに、私たちのまち奈良にまつわるものもたくさんあることを知っていますか。奈良市では、それらの話の中から3つを選び、市民のみなさんと協力して紙芝居にしました。これまでに制作された作品を紹介しします。



むかし、尼辻に「モチノキ地蔵」と呼ばれるお地蔵さんがいました。そのお地蔵さんは、人と話のできたので「ものいう地蔵」として、村中の評判でした。あるときそこに一人の男がやってきて、お地蔵さんと話をするのですが・・・

《笑い話》ですので、話の筋や落ちを、ここで紹介できないのが残念です。読んでみて、聞いてみて、見てみてのお楽しみ！



むかし、奈良に都があったころ、近江の国で赤ん坊が大きな鷲にさらわれてしまいました。その赤ん坊は、杉の木の上で泣いているところをお坊さんに助けられ、「良弁」という名をもらい、奈良一番のお坊さんになって大仏づくりを手伝いました。そして、東大寺二月堂にあるこの杉の木の下で、40年ぶりに母親と巡り合うことができたのです。それからこの杉は「良弁杉」と呼ばれるようになりました。



むかし、帯解にある広大寺池に、大きな龍が住んでいました。その龍が村人を取って食うので、人々は大変困っていました。そこで龍を退治

することになりましたがうまくいきません。そこへ一人の武士が通りかかり、龍の退治を引き受けてくれました。武士と龍との戦いははじまりましたが、さて、その決着は・・・？「龍象寺」というお寺の天井に描かれている龍にまつわる話です。

※これら3作の紙芝居は市立学校園に配っています。『帯解の龍』は、市内の国立・私立の学校園にも配っています。なお、3作とも学校教育課・市立図書館・県立図書館情報館で借りることができますので、子ども会や地域のイベントなどにもご利用ください。

学校紹介

東市小学校の巻

東市小学校は、室町時代に築かれた古市城の跡に建てられています。歴史は古く、1872(明治5)年、古市村西の丸の民家を借りて創設された「廣文舎」にさかのぼります。江戸末期に平城宮跡を研究し地図をあらわした北浦定政氏は古市村の出身です。また、かな書の大家、杉岡華郵先生はかつて東市小学校で教鞭を執られていました。

今年度は「生き生きと自分を発揮できる子を育てる」を教育目標として、朝学習・基礎学習タイム・放課後学習など、学力を高める取り組みを展開しています。また、朝の10分間読書や「東市おはなしの国」「えほんのひろば」といった読書イベントや、「のほほん倶楽部」のみなさんによる読み聞かせ活動など、読書意欲を高める活動も盛んです。

地域のみならず、校区ぐるみで子どもを見守り育ててくれています。9月には恒例の「東市まるごと子どもフェスタ」が盛大に行われます。



【問合せ】学校教育課 (☎0742 - 34 - 4763)